

2023年1月27日[金] 13:00-17:30

京都大学百周年時計台記念館2F 国際ホール III

開会メッセージ第1部 13:00-15:15 / 第2部 15:20-16:00 / 第3部 16:00-17:30

参加対象者 大学院生、PD、研究者、URA等研究支援担当者

形式 会場(グループディスカッション)+ 配信(MIRO等オンラインツールにてコメント受付)

言語 日本語・英語(同時通訳あり)

参加費 無料

主催 京都大学世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム、

京都大学学術研究展開センター、京都大学大学院教育支援機構

共催 京都大学欧州拠点

第1部:シンポジウム

若手研究者の 海外留学・海外転職、再考 ——パンデミック後の 研究キャリア選択

若手研究者による国際経験ケーススタディ

海外への転出・母国への帰国における視点

「海外での学びを帰国後に最大限に活かす戦略」

井上浩輔[京都大学 医学研究科、L-INSIGHTフェロー]

海外(日本)の研究機関の異動における視点

「バランスを求めて——研究分野と文化を越える試行錯誤の道のり」

ジーナス・チャオ[東京大学 国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構]

(日本から)母国への帰国後における視点

「帰国後にわかる異文化経験のスーパーパワーとは」

ジェニファー・コーツ[シェフィールド大学 東アジア学科]

専門家による国際流動分析

「研究者のキャリア構築に関するイベントヒストリー分析に基づいて」

藤原綾乃[日本経済大学 経営学部]

シリーズについて

国際的に解決すべき課題が次々に顕在化する現在、
学術と国際社会を接続する視点から研究テーマやキャリアを考える

若手研究者も少なくないでしょう。

本シリーズでは、世界で活動する若手研究者が、

自らの経験から得られた視点を一つのケースとして提示し、

全体と個、競争と共存のバランスを取りながらキャリアと研究課題を

いかに戦略的に展望するのかを参加者と共に考えます。

テーマについて

シリーズ第2回となる今回、

第1部では海外機関から帰国したL-INSIGHTフェロー、
海外出身のWPI所属研究者、京都大学から母国へ帰国した研究者、

また研究者のイベントヒストリーの専門家が登壇します。

第2部では融合研究に関するワークショップを実施します。
国際流動が回復する中、国際的な環境に興味がある大学院生や、

研究室内の国際化に直面する若手研究者にとって

有益な場となるはずです。

登録 <https://forms.gle/Y4KypF7EQQ9vY8Xi7>

参加申込期限:2023年1月26日(正午)

申込多数の場合は参加人数を調整する可能性があります。



第2部:ワークショップ

今日からはじめる 融合研究

京都大学学術研究展開センター

若手研究者支援 ショークース

ワークショップ

講師

藤田弥世[京都大学学術研究展開センター]

L-INSIGHTキャリアプログラム

第3部:ネットワーキングと軽食

若手研究者の

海外留学・海外転職、

再考

——パンデミック後の

研究キャリア選択

Series:

Life as a Scholar

“Your home and beyond”

第2回

Global Mobility for Early Career Researchers in Post-pandemic World

13:00-13:10

開会メッセージ

「『同じ』と『違う』のバランス」

狩野光伸 [日本学術会議会員、文部科学省科学技術・学術審議会委員、L-INSIGHT アドバイザリーボード]



狩野光伸

第1部

若手研究者の海外留学・海外転職、再考 ——なにが得られるか、なにを求めるか？

13:10-13:55

若手研究者による国際経験ケーススタディ

海外への転出・母国への帰国における視点

「海外での学びを帰国後に最大限に活かす戦略」

井上浩輔 [京都大学 医学研究科、L-INSIGHTフェロー]



井上浩輔

海外(日本)の研究機関の異動における視点

「バランスを求めて

——研究分野と文化を越える試行錯誤の道のり」

ジーナス・チャオ [東京大学 国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構]

(日本から)母国への帰国後における視点

「帰国後にわかる異文化経験のスーパーパワーとは」

ジェニファー・コーツ [シェフィールド大学 東アジア学科]



ジーナス・チャオ

13:55-14:05

専門家による国際流動分析

「研究者のキャリア構築に関するイベントヒストリー分析に基づいて」

藤原綾乃 [日本経済大学 経営学部]

14:05-14:35

登壇者とのグループディスカッション

グループ・ファシリテーター

Thi Thuc Vien Dinh [京都大学 農学研究科]

Samuel Matthew Girao Dumlao [京都大学 エネルギー科学研究科]

Phyoe Wae Hein [京都大学 工学研究科]

Surabhi Raman [京都大学 医学研究科]

永井翔吾 [京都大学 理学研究科]

坂田千文 [京都大学 文学研究科]

山田真太郎 [京都大学 医学研究科、L-INSIGHTフェロー]

吉光奈奈 [京都大学 工学研究科、L-INSIGHTフェロー]

14:35-15:05

全体ディスカッション

モデレーター

新井康之 [京都大学医学部附属病院、L-INSIGHTフェロー]

15:05-15:15

結び

赤松明彦 [京都大学次世代研究者戦略拠点長]

第2部

今日からはじめる融合研究

京都大学学術研究展開センター (KURA) 若手研究者支援 ショーケース

15:20-16:00

ワークショップ

講師

藤田弥世 [京都大学学術研究展開センター]



藤原綾乃

第3部 16:00-17:30

ネットワーキングと軽食

(前田珈琲による無料の軽食つき)

お問い合わせ

京都大学 世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム(L-INSIGHT)事務室
電話:075-753-5916 /メール:admin-l-insight@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



狩野光伸 | KANO Mitsunobu

岡山大学 副学長/ヘルスシステム統合科学研究科 医療技術臨床
応用学 教授/日本学術会議 会員/文部科学省 科学技術・
学術審議会 委員/L-INSIGHTアドバイザリーボード

東大医卒、博士(医学)。聖路加国際病院で臨床研修。東大教員
を経て、現岡山大学教授、副理事(SDGs推進担当)、薬学部長。その
他、外務省外務大臣次席科学技術顧問、日本学術会議会員、
文部科学省科学技術・学術審議会委員など、政府公職等も多
数経験。

井上浩輔 | INOUE Kosuke

京都大学 医学研究科 社会健康医学系専攻国際保健学講座
社会疫学 助教

2013年東大医学部卒。国立国際医療研究センター、横浜労災
病院の勤務を経て、2021年UCLA公衆衛生大学院(疫学)博士
課程修了。同年より京都大学大学院 医学研究科 社会疫学分
野 助教。京都大学医学部付属病院 糖尿病・内分泌・栄養内科
で診療にも従事。2020年NIH/NIDDKF99/K00 Award受賞。
2017-2022年、査読付き論文68報(うち筆頭/責任論文44本)。主な
研究テーマは、因果推論の手法を用いた、臨床医学における因果
メカニズムの解明と、社会背景因子によるその異質性評価。

ジーナス・チャオ | Zenas Chao

東京大学 国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究
機構 主任研究員/准教授

ジーナス・チャオ氏の関心は、人間の心と人間のような知能を持つ
機械の開発にあり、自由意志、意識、創造性の生物学的起源を
知りたいと考えています。台湾の大学で生命科学と化学の学士号
を取得後、米国のジョージア工科大学で生物医学工学を学びまし
た。博士課程では、シャーレの中で神経細胞を培養し、それをロ
ボットに接続して、人工有機脳を持つ機械が目的に沿った行動を
学習できることを実証しました。大学院修了後、来日し、理化学研
究所脳科学総合研究センター 研究員、生理学研究所助教、京
都大学講師として、ヒトやサル在行动中の脳信号をいかに解読し、
脳によるロボットやコンピュータの制御をいかに可能にするか研究
を行ってきました。現在は、東京大学ニューロインテリジェンス国際
研究機構(IRCN)の主任研究員/准教授として、コンピューター系、
培養系、生体系の研究経験を活かしながら、予測符号化と創造
的問題解決を検証しようとしています。

ジェニファー・コーツ | Jennifer Coates

シェフィールド大学 東アジア学科 教授

シェフィールド大学東アジア学科の日本研究の教授。2014-2019
年、京都大学白眉センター 助教(文学研究科)。著書には、『Making
Icons: Repetition and the Female Image in Japanese Cinema,
1945-1964』(Hong Kong University Press, 2016年)や『Film Viewing
in Postwar Japan, 1945-1968: An Ethnographic Study』
(Edinburgh University Press, 2022年) があります。また、『Japanese
Visual Media: Politicizing the Screen』(Routledge, 2021年、E.
ベンアリとの共編)や『The Routledge Companion to Gender and
Japanese Culture』(Routledge, 2019年、L. フレイザー・M. ベンドルトンの
共編)の編者でもあります。英国芸術・人文科学研究会(AHRC)の
イノベーション・スカラー。2021年、視覚芸術・舞台芸術分野でフリッ
プ・リーヴァー・ヒューム賞受賞。

藤原綾乃 | FUJIWARA Ayano

日本経済大学 経営学部 准教授

東京大学経済学部卒。東京大学大学院工学系研究科修了。博
士(工学)。大阪大学大学院国際公共政策研究科助教、文部科
学省科学技術・学術政策研究所主任研究官を経て、現職。主な
研究テーマは、イノベーション論、人材流動化が与える影響に関す
る分析。

新井康之 | ARAI Yasuyuki

京都大学医学部附属病院 検査部 助教

2006年京都大学医学部医学科卒。医学研究所北野病院、倉
敷中央病院での臨床研修を経て、京都大学大学院医学研究科
博士課程修了(血液・腫瘍内科)。以降、3年間米国国立衛生研
究所にて博士研究員として、免疫学研究に従事。帰国後、京都
大学医学部附属病院血液内科医員を経て、2018年より輸血細胞
治療部(現:検査部・細胞療法センター)助教。造血幹細胞移植をは
じめとした細胞療法の開発と応用に取り組む。



新井康之



京都大学

